

インスタンスをアップグレード

アップグレード

ActiveServerのアップグレードは、`as.jar` を新しいバージョンに置き換えるだけのシンプルなプロセスです。

既存の**ActiveServer**インスタンスを最新バージョンにアップグレードするには：

1. **ActiveServer**インスタンスノードを停止します。
2. **ActiveServer**ディレクトリを開き、ロールバックが必要な場合は、古い `as.jar` ファイルをバックアップ（単純にコピーするか、アーカイブで保存）します。
3. **ActiveServer**データベースをバックアップします（バックアップ・プロセスとデータベース固有の要件については、データベースのドキュメントを参照してください）。
4. 新しい**ActiveServer**パッケージをダウンロードし、一時ディレクトリに展開し、`as.jar` ファイルを**ActiveServer**ディレクトリにコピーします。
5. **ActiveServer**インスタンスノードを起動します。**ActiveServer**は、起動中、必要に応じてデータベースを自動的にアップグレードします。アップグレードプロセスが完了します。

クラスタリング環境でのアップグレード

複数の**ActiveServer**ノードが同じデータベースで展開されているクラスタリング環境では、データベースのアップグレードプロセスは次のようになります。一度に1つのノードのみがデータベースを移行できるように自動的に処理されます。クラスタ内の残りのノードの起動プロセスは、最初のノードによってデータベースの移行が完了するまでブロックされます。

V1.3.3以降へのアップグレード

v1.3.3から、**ActiveServer**は**DSプロファイル**をサポートします。これにより、単一のインスタンスが国際ブランドの本番環境ディレクトリサーバーとGPayments TestLabsディレクトリサーバーの両方に接続できます。ただし、**ActiveServer**をv1.3.3以降にアップグレードするときに確認していただく必要がある2つの重要な更新があります。

- ・ 3DSリクエスターからのAPIリクエストに `trans-type=prod` に追加する。

- ・ GPayments TestLabsがアクセスする追加のポートを構成する。

ActiveServerをv1.3.3にアップグレードすると、デフォルトで、すべての認証APIリクエストがテスト目的の為のGPayments TestLabsディレクトリサーバーに送信されます。本番環境に移行するときに、APIリクエストを国際ブランドのディレクトリサーバーに送信するには、**trans-type** クエリパラメータをAPI URLに追加する必要があります。

認証リクエストを国際ブランドの本番ディレクトリサーバーに送信する場合、このパラメータは **InitAuth**、**Auth** と **Enrol プロセス**に必要です。このパラメータを指定しなかった場合は、認証リクエストはGPayments TestLabsに送信されます。

例： **InitAuth** は `https://api.testlab.3dsecure.cloud/api/v2/auth/brw/init?trans-type=prod` で呼び出されます。

3DSリクエスターをまずはアップデートしてください

重要すでに本番環境に移行している場合は、アップグレードプロセスをスムーズに進めるために、アップグレードの前に既存の3DSリクエスターコードに **trans-type=prod** パラメータをアップグレード前に追加してください。これにより、アップグレードが行われるとすぐに、既存のすべての実装が、既に構成されている本番DSにAPIリクエストを送信するようになります。

v1.3.3にアップグレードする前に3DSリクエスターに「trans-type=prod」を追加しなかった場合、アップグレード後にすべてのリクエストがTestLabs Directory Serverに送信されます。

現在TestLabsのみを利用している場合、APIリクエストはアップグレード後もTestLabsに送信され続けるため、この手順は必要ありません。

GPayments TestLabsの構成方法

TestLabsへの継続的なアクセスが必要な場合は、TestLabs DS通信用に追加のポートを開く必要があります。これにより、稼働中の国際ブランドのDirectory Serverを使用するのと並行してTestLabsでテストできます。追加のポートは、GPayments TestLabs Directory Serverから外部からアクセスできる必要があります。設定は **application-prod.properties** に追加する必要があります。以下にプロパティの例を示します：

```
##-----  
## GPayments TestLabsのDSポート構成  
##  
## GPayments TestLabsディレクトリサーバーからの接続に使用されるDSポート  
##-----  
  
## Visa TestLabs  
as.testlab.visa.port=9800  
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します  
# as.testlab.visa.enabled=false  
  
## Mastercard TestLabs  
as.testlab.mastercard.port=9801  
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します  
# as.testlab.jcb.enabled=false  
  
## American Express TestLabs  
as.testlab.amex.port=9802  
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します  
# as.testlab.amex.enabled=false  
  
## Discover TestLabs  
as.testlab.discover.port=9803  
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します  
# as.testlab.discover.enabled=false  
  
## JCB TestLabs  
as.testlab.jcb.port=9804  
## DS HTTPSリスニングポートを無効にするには、falseに設定します  
# as.testlab.jcb.enabled=false
```

`application-prod.properties` の設定の詳細については、[クイックスタートガイド](#)を参照してください。

注釈

v1.3.3にアップグレード後、GPayments TestLabsに関連するすべてのDS設定と証明書を安全に削除できます。または、国際ブランドによって提供される証明書を置き換えるときに、この手順を徐々に完了することもできます。

ロールバック

前のバージョンの**ActiveServer**にロールバックする必要がある場合：

1. **ActiveServer**インスタンスノードを停止します。
2. **ActiveServer**ディレクトリを開き、必要に応じて、古い **as.jar** ファイルをバックアップ（単純にコピーするか、アーカイブで保存）します。
3. **ActiveServer**ディレクトリに以前の **as.jar** をリストアします。
4. 以前バックアップした**ActiveServer**データベースをリストアします。
5. **ActiveServer**を起動します。